

おきとまりかいがん おおがたゆうこうちゅうかせきみつしゅうそう  
**沖泊海岸の大型有孔虫化石密集層**

【所 在 地】大島郡知名町下城須原933-3, 934-5, 950-2のそれぞれ一部

【種 別】県指定天然記念物

【指定年月日】平成24年4月20日



沖泊海岸の海食崖



地層の様子

有孔虫は原生動物のひとつのグループで、殻は一部の種を除けば炭酸カルシウムの結晶からなる。大型有孔虫は一般に熱帯～亜熱帯の沿岸浅海域に生息しており、その仲間は「星砂」として土産店で売られている。

沖泊海岸に露出する琉球層群下部層は3層に分かれ、下位から大型有孔虫化石密集層、サンゴ礁石灰岩、大型有孔虫化石を含む生碎屑物からなる石灰岩が重なる。

下部層に密集して産する大型有孔虫化石の大半は、サイズが最大1cmのオパキュリーナ・コンプラナータ(*Operculina complanata*)で、現世ではサンゴ礁外側の深い斜面に生息している。下層部には、この大型有孔虫種が密集して産出することから、堆積した環境はサンゴ礁外側の水深20～30メートルあたりと考えられる。しかし、現世でも本部層のように、ほぼ本種のみからなる大型有孔虫群集はほとんど報告されておらず、その理由を解明するには貴重な露頭ということができる。ほぼ単一の大型有孔虫種の密集した層として、約6,000～3,000万年前に生息した貨幣石(*Nummulites*)が世界各地の同時代の地層から報告されているが、比較的若い第四紀において、ほぼ単一の大型有孔虫化石が密集する層は世界的にも少ない。

オパキュリーナ・コンプラナータがほとんどを占める沖泊海岸の大型有孔虫化石密集層は、その意味で極めて貴重である。